

第638回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2021年11月度 ——

◇ 開催日

2021年11月15日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

第25回水と緑の物語「やさしいクイズ」(約45分)

放送日時：9月18日 午前9時30分～午後4時30分

◇ その他

今回は「新型コロナウイルス」感染防止（三密回避）の観点から、十分にソーシャル・ディスタンスを確保するため通常より広い会議室にて開催した。

九州朝日放送株式会社

第638回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2021年11月15日(月)午後3時25分～4時20分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

今回は「新型コロナウイルス」感染防止（三密回避）の観点から、十分にソーシャル・ディスタンスを確保するため通常より広い会議室にて開催した。

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	赤木	由美
副委員長	石橋	和幸
委員	上野	恵梨奈
委員	石井	靖子
委員	藤村	まこと
委員	丸石	伸一

欠席委員数 2名（レポート代読）

委員	中山	裕二
委員	田川	真司

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣	靖
執行役員	岩村	智
報道情報局長	柴田	高宏
総合編成局長	大保	一
総合編成局 番組戦略部長	渡辺	浩司
総合編成局 番組戦略部 プロデューサー	河相	大輔
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	園田	哲也
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松永	俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 第25回水と緑の物語「やさしいクイズ」(約45分)
放送日時：9月18日 午前9時30分～午後4時30分
- (2) 11月・12月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 10月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

「KBC水と緑のキャンペーン」は、エリアの皆さんにふるさとについて足元から考えてもらおうと、1997年にスタートした環境啓発活動で、今年で25回目を迎えました。例年であれば、夏場にそのハイライトとして「水と緑の物語」と題した長時間の生放送番組と関連イベントを展開していますが、今年は新型コロナウイルス感染症などの影響から、イベントの開催は断念。9月18日(土)午前9時30分から午後4時30分に7時間の生放送番組をお届けし、委員から企画の一つ「やさしいクイズ」(約45分)について、意見を賜りました。

委員の意見(概要)

委員からは、

- SDGsを「地球にやさしいこと」と再定義することにより、視聴者に身近なこととして捉えることができるよう工夫がされていた。一つひとつは小さな取り組みだが持続可能な未来へつながる大きな一歩というメッセージに納得した。
- 環境対策やSDGsを正面から取り上げるのではなく、「やさしい」という言葉に置き換えて親しみやすさを印象づけるとともに、クイズ形式にして堅苦しくない見せ方に徹していたのが良かった。
- 福岡の身近な話題や地元企業の環境保全に関する取り組みとSDGsを結びつけられており、気楽に楽しんで視聴することができた。ためになる情報盛りだくさんの面白いクイズコーナーだった。歴史や伝統を掘り下げ、その工夫や配慮が伝わり、視聴者も「なるほど」と思える「やさしさ」が含まれていた。
- 人に「やさしい」だけでなく、環境にも「やさしい」という意味を含んでおり、環境問題を喚起する内容になっていた。地域や企業にもやさしく、インスタライブを通じて女性を狙った企画もありながら、クイズ形式を導入することにより全視聴者に「やさしい」番組づくりになっていた。
- 楽しいクイズ形式のように見せながら、社会の課題解決のため、企業や組織、個人の意識を変えていく、という思いが強く込められていた。娯楽、情報番組のようであり、全ての視聴者に問題提起をする、社会派の教育的要素を含む番組だった。
- 穏やかな宮本アナウンサーと歯切れよく的確なコメントをするアンミカさんとの掛け合いはテンポよく、好感を抱くことができた。
- KBCはエリアの魅力を伝える地方創生プロジェクト「ふるさとwish」に取り組んで

おり、地域密着型の地道な取材と番組づくりがこうした企画につながっているのだと思う。今後も地域密着の番組と人びとのアクションにつながる情報発信に期待している。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 「やさしい」をキーワードに様々な話題が出てきて面白かった反面、若干あれもこれもという感じがした。取り上げられた話題や出題の数が多く、急ぎ足だと感じた。
- もう少し一貫したテーマを示してもよかった。司会者と回答者のやり取りに時間を割き価値を共有したほうが、より「やさしさ」を実感できたのではないか。
- 様々な取り組みを「やさしい」の一言に結び付けるのは強引な気がした。回答者に無理やり「やさしい」を押し付けている感じがした。
- SDGsを「地球にやさしいこと」と再定義していたが、本来の意味からは少しかけ離れているのではないか。
- ドラマ仕立てで上司役が怒鳴る場面はハラスメントを連想した。演出が過剰だったのではないか。コメディータッチで秀逸だったが、少しマイルドな表現にしてほしかった。
- 農業高校の生徒向け川柳コンテストの話題はほっこりしたが、メーカーの取り組みの背景や高校生を支援する理由などにも触れてほしかった。
- 百貨店の古紙を使った買い物袋の話題は興味深かったが、（従来品との）製作費の比較や、コスト増でも企業が取り組む必要性といった部分も盛り込んで欲しかった。
- クイズ形式で「やさしい」を切り口にテーマを楽しんで欲しいという趣旨は理解できるが、本来の「水と緑のキャンペーン」のテーマを伝えづらくしている気がした。環境負荷低減等を打ち出し、他局との差別化も図ってほしい。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- SDGsを扱う番組からはいつも「押しつけがましき」を感じていた。視聴者が自分たちの身のまわりの出来事として認知し、取り組んでもらえるような企画にすべく工夫した結果、クイズ形式という形を選んだ。
- 掘り下げ方が不十分で詰め込み過ぎだったというご指摘はその通りだ。クイズ形式にすることで、より多くの視聴者にやさしく、導入を広くしたという演出上の意図はあったが、伝えたい部分が欠けたことは反省点。
- 25年前に始まった「水と緑の物語」に求められるテーマは年々変わってきている。近年は、自然災害やコロナ、SDGs等のテーマも求められており、それらの要素をバランスよく7時間の放送で構成した。環境負荷低減は検討したい。
- 「前川清の笑顔まんてんタビ好き」は「災害復興」をテーマにした。「シリタカ！」は、「海洋ごみ問題」をテーマにしっかりとした内容をお届けした。バリエーション豊かな各コーナーのうち一つが「やさしいクイズ」だった。好評だったので定番化を考えており、委員から得られたご指摘は来年以降に役立てたい。

などの説明をしました。